

群 教 セ	G10 - 01
	平17.227集

# 友達と学び合って友情を深めていこうとする 意欲をはぐくむ道徳指導の工夫

— 友達への考えを記述した「スマイルノート」を活用して —

特別研修員 武井 貞子 (みどり市立大間々北小学校)

## 《研究の概要》

本研究は、日常生活や学校行事などから友達とかかわった場面を思い出し、友達への考えを児童が記述した「スマイルノート」を活用して、友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲をはぐくむことを実践的に研究したものである。具体的には、道徳の時間の前半では、「スマイルノート」と日常生活などを基に自作した読み物資料を使って主人公の考えを発表し、後半では日記や友達からのカードを基に自己を振り返る活動を行った。

**キーワード** 【道徳 小学校5年 友情 学び合う 協力し助け合う スマイルノート】

### I 主題設定の理由

異なった個性の子どもたちが学級という集団の中で、かかわり合い、影響し合うことは友情を深めていく上で必要なことである。しかし、単に遊び仲間として楽しく過ごすだけでは真の友情ははぐくまれない。互いの立場や気持ちを考えた上で、励ましや忠告を言い合えることや一つの目標に向かって協力し合うことが大切である。そうした体験を通して友情はより深まり、学び合いながら互いを向上させていき、真の友情へと高まっていくと考える。

気の合う友達同士で仲間づくりをしていた中学年から、高学年となって5年生では相手の立場に立って考えられるようになり、友達への共感やかかわりが深まっていくようになる。一方、相手に対して批判する傾向も強まり、相手の欠点や過ちをもとに人物像をつくってしまったたり、特定の仲間とだけかかわったりして、互いの内面を理解し合おうとしない場面も見られる。

これらの実態は、友達とのかかわりが狭く浅いこと、相手の助言を素直に受け入れたりすること、友達から学ぼうとする経験が少なかったりすることなどが原因と考えられる。

そこで、児童が友達への考えを記述したものと日常生活の様子などを基に読み物資料を自作し、道徳の時間で主人公の気持ちを考えたり、それを基に自己を振り返ったりすることを通して、仲間のよさや相手からの助言を生かしていくなど友達

と学び合って友情を深めていこうとする意欲をはぐくむことができると考え、本主題を設定した。

### II 研究のねらい

道徳「互いに信頼し、協力し助け合いながら学び合って友情を深める」〔2-(3)〕において、友達への考えを記述した「スマイルノート」を基に自作した読み物資料を道徳の時間で活用し、主人公の気持ちを考えたり、振り返りで活用したりすることによって、友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲がはぐくまれることを実践を通して明らかにする。

### III 研究の見通し

1 道徳1主題名「協力し助け合う」において、「スマイルノート」と児童の日常生活を基に資料化した読み物資料「運動会」を使い、三段タワーが成功したときの主人公の考えを発表し合い、後半で「スマイルノート」を見て自己を振り返れば、協力し助け合おうとする気持ちをもつことができるであろう。

2 道徳2主題名「友達と学び合う」において、「スマイルノート」と児童の日常生活を基に自作した読み物資料「おくり物」を活用し、友達とのかかわりについて迷う主人公の気持ちを考え、後半で読んだメッセージカードを基に友達

とのかかわりについて振り返れば、友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲をもつことができるであろう。

りしようとしたことを記述したカードである（資料2）。

**資料2 振り返りカード**

**IV 研究の内容**

**1 基本的な考え方**

**(1) 友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲をもっている児童とは**

児童の実態から以下に示すような姿ととらえた。

○相手の気持ちを考えて、協力したり、助けたりしようとしている。

○友達のよさをほめ見習ったりしていこうしたり、友達の忠告や助言を素直に受け入れ行動に移そうとしたりしている。

○友達の過ちや失敗には忠告や助言をしたり苦手なことを教えたりしようとしている。

事前に関連学習として〔相手の考えや立場を考えようとする心情を育てること2-(4)〕をねらいとして学習する。

**(2) 「スマイルノート」とは**

日常生活や学校行事などで、友達と協力し助け合おうとしたことや友達のよさから学ぼうとしたことなどを、児童が日記やカードに記述し、「スマイルノート」としてファイルにした。具体的には以下のア～エの取組のことである。

**ア スマイル日記**

協力したり助け合ったりしたことや友達を見習ったり助言を受けたりしたことを中心に記述した日記である（資料1）。道徳1、2の事前、事後活動として、毎日帰りの会の前に記述する。友達とのかかわりを基に自分の考えを記述できるように、書けなかったり視点が外れたりする児童に適切な助言をする。

**資料1 スマイル日記**

**スマイル日記**

友達とかかわったときに考えたことを書いてみよう

名前 ( )

月 日 ( )

---



---

**イ 振り返りカード**

友達とのかかわりが多くなる学校行事などの後に友達とかかわった活動を振り返り、協力し助けようとしたことや友達を見習ったり助言を受けた

<p><b>振り返りカード</b> ～運動会～</p> <p style="text-align: center;">名前 ( )</p> <p>～運動会の競技や係の仕事などで友達とかかわったことについて思い出して書きましよう</p> <p>1 協力しよう、助けようと思ったことがありましたか。それはどんなときで、どのように考えましたか。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>2 そのとき（協力しよう、助けようと思ったとき）友達に言ったり、行動したりしたことがありましたか。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	<p><b>振り返りカード</b> ～宿泊学習</p> <p style="text-align: center;">名前 ( )</p> <p style="text-align: center;">日目～</p> <p>～宿泊学習で、友達とかかわったことについて思い出して書きましよう～</p> <p>1 友達のうまくできなかったことを励ましたり、教えてあげたりしようと思ったことはありましたか。それはどんなときでどのようなことですか。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>2 友達のよいところをほめたり、まねしたりしようと思ったことがありましたか。それはどんなときでどのようなことですか。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
--	--

5年生の児童は学校行事である運動会での組み立て体操やムカデ競走、宿泊学習での野外炊事などにおいて、友達とのかかわりが増え、協力し助け合う場面や友達のよさや苦手なことに気付く場面が多く見られると考え、振り返りカードに書くことが効果的であると考えた。

**ウ メッセージカード**

友達の苦手なことを助言したり、友達のよさを見習いたいことなどが書かれた児童から児童へのメッセージを書いたカードである。道徳2の事前学級活動で記述し、書いた相手に渡す。

**エ ワークシート**

道徳の時間1、2の中で主人公の気持ちを考えたり、自己を振り返ったりするときに記述した学習記録である。

ア、イと児童の日常生活を基に読み物資料を自作してねらいに迫ることや、道徳の時間の展開後半で、アやイ、ウを用いて振り返りを行うことを手だてとする。

**(3) スマイル日記、振り返りカードと児童の日常生活を基に読み物資料を自作することについて**

「スマイルノート」と児童の日常生活を基に自作した読み物資料を使うことは、児童が資料の中に入り込みやすくなったり、登場人物を身近に感じたりしながら、主人公の考えをとらえ、ねらいとする価値に迫るために効果的であると考える。

そのために、協力や学び合うことにかかわる体験について児童が書いたスマイル日記や振り返りカードの内容を吟味し、日々の児童の様子を観察

する必要がある。そして学校行事や日常生活を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることのできる資料となるように内容を構成する。また、ねらいとする価値に迫るための発問が生かせるような場面を資料中に設定する。

道徳1の資料「運動会」は、運動の苦手な主人公が組み立て体操の三段タワーの一番下選ばれがんばる気持ちになるが、練習での小さなミスから失敗してしまい友達と言い争いになり、協力する気持ちを失いかける。しかし運動会当日、力を合わせようと友達と決意し、本番に臨む。ついに三段タワーが見事成功し、友達と喜びを分かち合うというものである（資料編 道徳1参照）。

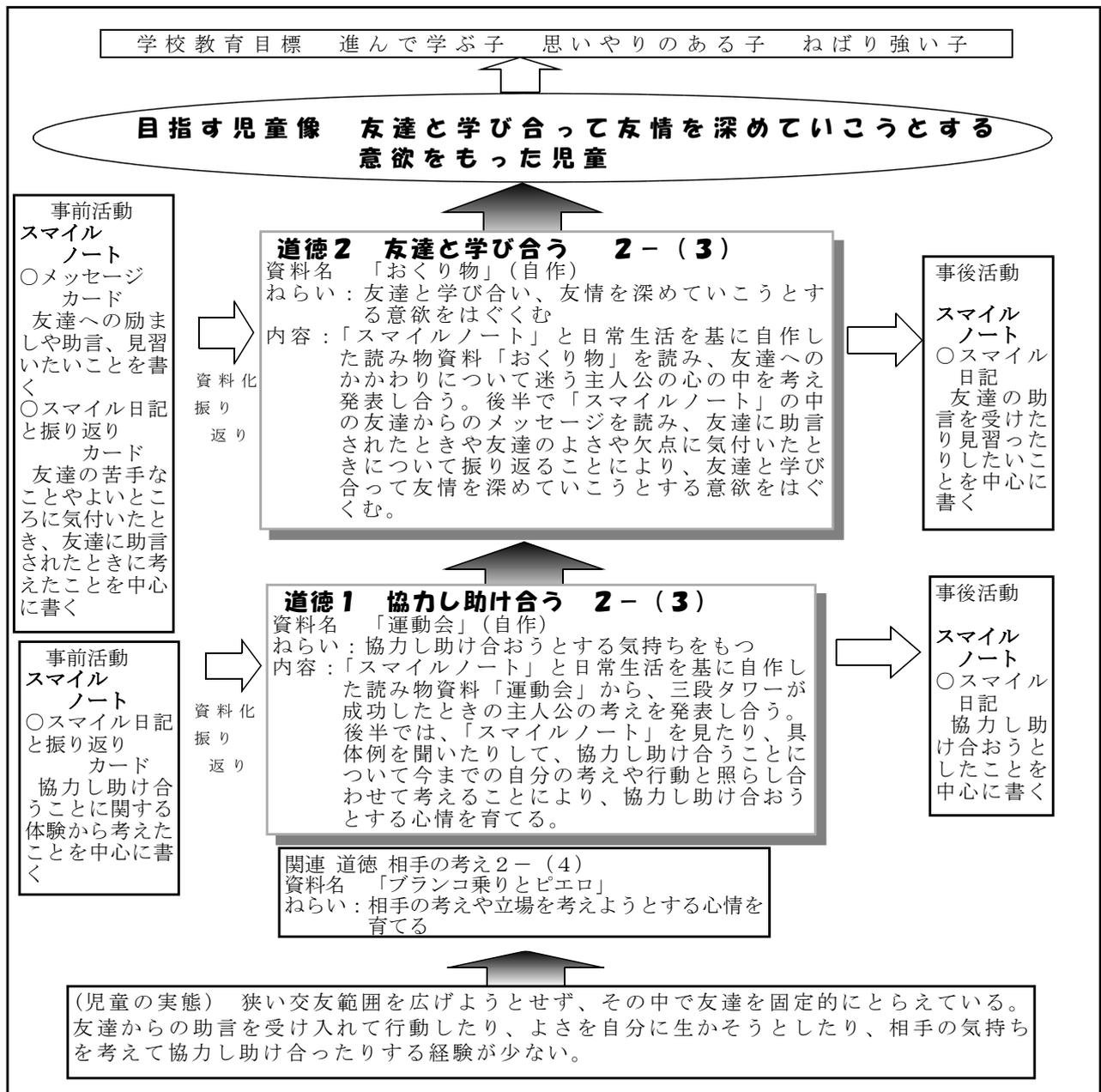
この読み物資料では、主人公が友達とけんかに

**資料3 全体構想図**

なり協力する気持ちを失いかける場面と、協力できたことで成し遂げられたときに友達と喜び合う場面が対照的になるように設定する。

道徳2の資料「おくり物」は、宿泊学習の野外炊事でのカレー作りのとき、主人公が野菜を切るのが下手な友達をけなしてしまうが、その夜、その友達が自分のよさをほめ見習いたいと話しているのを聞き、妙な気持ちになる。日常生活に戻った主人公は、その友達が給食当番でみそ汁をこぼして文句を言われるのを見て、どうかかわったらよいか迷うが、手をさしのべたとき、友達への考えが変化したことに気付くというものである（資料編 道徳2参照）。

この読み物資料では、友達へのかかわりについて主人公の考えがある出来事をきっかけに変化し



ていく様子をとらえられるように内容を構成するとともに、友達へのかかわりについて迷う葛藤場面に中心発問を設定する。

#### (4) 展開後半でスマイル日記、振り返りカードを基に自己を振り返ることについて

「スマイルノート」を基に自己を振り返る活動は、今までの自分の考えや行動を容易に想起しやすく、ねらいとする価値と照らし合わせて考える上で効果的であると考え。様々な活動に取り組む5年生にとって、友達とかかわったいろいろな場面の記憶は日々薄れていってしまう。そのために道徳1、2のねらいとする価値にかかわるような場面で、友達について考えたことや行動したことを記述しておくことが必要である。

#### (5) 展開後半でメッセージカードを基に自己を振り返ることについて

日常での自分の考えや行動を振り返るだけでなく、友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲をはぐくむために、友達からの温かい励ましや助言等が効果的であると考え。自分の欠点を温かく励ます助言や、よいところをほめ見習いたいと書かれたメッセージカードを読むことにより、友達への関心が高まり、友達に助言されたり、友達の欠点やよさに気付いたりしたとき、友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲がはぐくまれると考える。

#### (6) 全体構想図(資料3)

## 2 実践の概要及び結果と考察

### (1) 道徳1において、協力し助け合おうとする気持ちをもつことができたか。(見通し1)

#### ア 実践の概要

道徳1の事前活動として児童は、道徳1を学習する1週間前からスマイル日記に、運動会当日は振り返りカードに、日常生活で協力し助けようとしたことを記述した。

運動会の練習や当日の様子、「スマイルノート」のスマイル日記、振り返りカードを基に読み物資料を作成した。

道徳1では、導入において、子どもたちが実際に今年の運動会で体験したムカデ競走について、負けてしまった理由を考え、発表し合った。

展開前半では、読み物資料「運動会」(自作)を使い、運動会の練習で友達と言い争ったときの主人公の気持ちを考えた。そして運動会当日、三段タワーが成功したときに主人公が考えたことを

発表し合った。さらに協力できるとよいのはどんなときかについても考えた。

展開後半では、「スマイルノート」のスマイル日記や振り返りカードから、片付けでマットを運ぶ人が大変そうだから手伝ったという具体例をあげ、協力し助け合った場面を思い出させるようにした。そこで児童は「スマイルノート」を基に協力し助け合うことについて、友達に対する今までの自分の考えや行動を振り返り、ワークシートに書いた。

#### イ 結果と考察

事前のスマイル日記には、運動会が近く、組み立て体操の練習が多いために、友達とかかわった場面について友達への考えを記述している児童がほとんどであった。

道徳1の導入で、児童は、今年の運動会のムカデ競走の敗因について考えた。その中で「練習が足りなかった」「息が合わなかった」などが出され、協力できないとうまくいかなかった体験を思い出した。

展開前半で、友達と言い争い協力しようという気持ちを失いかけた主人公の気持ちに共感した後、運動会当日、三段タワーが成功したときに主人公が考えたことを発表し合った。「最後まで頑張ったから」「友達と気持ちを合わせたから」「力を合わせたから」などの意見が出た。実際の運動会を思い出しながら「タワーの上や下の人のことを考えて協力したから」という意見も出た。A男は「タワーが成功してよかった。まとまれば成功できるんだな。」、B子は「最後まであきらめないでやってよかった。タワーが成功してうれしいな。みんなで力を合わせて協力することは大切なんだなあ。」と発言した。これらの発言から、協力があったから成功できたことをとらえることができたと考える。そして協力できるとよいのはどんな場面か投げかけると、技がうまくできることや掃除で早くきれいになること、給食を早く配れることなどが出た。

具体的に協力するとよい場面が出てきたので、「スマイルノート」から具体例をあげ、協力し助け合うことについて今までの自分を「スマイルノート」を基に振り返ろうと投げかけた。ワークシートには、学校や家庭での協力したい場面からみんなで協力し助け合っていきたい気持ちや、具体的に協力できた場面から協力のよさを実感している内容も多かった(資料4)。

#### 資料4 協力し助け合うことについて

協力し助け合うことについて、どうだったか。

複数回答

- ・(みんなと給食やそうじなどで、家族でも)  
協力し助け合っていきたい (20人)
- ・早くきれいにできるよさを実感した (4人)
- ・うれしくなる、気持ちよくなる (2人)
- ・この学習で協力が大切だと気付いた (1人)
- ・助けてもらったから、助けていきたい (1人)
- ・そうじや給食、組み立て体操で協力できた(15人)
- ・そうじなどで協力できなかった (3人)

A男は「重い物を持っている友達を手伝ってあげた」体験を思い出し、協力したり助けたりすることのよさを実感したことを書いていた(資料5)。

#### 資料5 道徳1のA男のワークシート

1人で重い物を持っている友達を手伝ってあげたことがある。助けてあげるとありがたいと言われてうれしくなったりする。協力すると楽しくなったりうれしくなったりする。

B子は「友達が困っていて協力しようと思ったが勇気がなくてできなかった。これからは勇気をだして声をかけていきたい。」と協力できなかった体験から、今後協力していきたい気持ちを書いていた。それぞれ、「スマイルノート」を基に協力し助け合うことについて具体的な体験を振り返ることができ、そのよさに気付いたり、今後の課題を見いだしたりすることができた。

事後1週間で書かれたスマイル日記でも、A男は掃除で班の友達と協力したことを書き、B子は重い物を運んでいる友達を手伝ったことについて述べ、実践できたことを書いていた(資料6)。

#### 資料6 道徳1の授業後のB子の一言日記

今日、運動会の片付けのとき、〇〇ちゃんが、金管の楽器を運ぶとき重たくて大変そうだったので、手伝ってあげました。

これらのことから「スマイルノート」を基に振り返ることで、協力し助け合うことについて今までの自分の考えや行動と照らし合わせて考えることができ、協力し助け合おうとする気持ちをもつことができたと考える。

(2) 友達と学び合って友情を深めていこうとする意欲をもつことができたか。(見通し2)

#### ア 実践の概要

道徳2の事前活動として児童は、日常生活ではスマイル日記に、宿泊学習当日は振り返りカードに、友達から助言されたときや友達のよいところや苦手なことに気付いたときに考えたことを記述した。

日常生活では掃除や給食当番、係活動などを中心に、また宿泊学習では野外炊事を中心とした友達とのかかわりの様子を観察する。これらの観察と児童の書いたスマイル日記、振り返りカードを基に読み物資料を作成した。

また学活の時間に「スマイルノート」を参考にして、友達から見習いたいことや助言したいことを子どもたちは「メッセージカード」に書いた。何人でも書きたい相手に書いてよいことにし、相手に渡した。

道徳2の導入では、友達の失敗や欠点に気付いたとき、今までどうしたかについて思い出し発表した。

展開前半では、読み物資料「おくり物」(自作)を使い、けなした相手が主人公をほめるのを聞いて妙な気持ちになった理由を考え発表し合った。次に、学校で給食を配る場面で、その友達がみそ汁をこぼしてしまい、文句を言われるのを見て、どうかかわるか迷う主人公の心の中を考え、発表し合った。また主人公の心の変化のきっかけや友達に文句を言った子のその後の様子についても考えた。

後半では、児童は事前に友達からもらっておいた「スマイルノート」のメッセージカードを読んだ。自分のよいところをほめて見習いたいという言葉や、苦手なことに対する温かい助言の言葉が書かれている内容を読んで、友達とのかかわりについて今までの自分を振り返り、ワークシートに書いた。

#### イ 結果と考察

道徳2の導入では、友達の失敗や欠点に気付いたときを思い出させると、「文句を言った」「見て見ぬふりをした」などが出された。友達のよいところに気付いたときについて聞くと、「何も言わなかった」「うらやましいと思った」などが出された。また友達から忠告や助言されたときには「無視した」「聞かなかった」などが出され学び合うかかわりができていない様子がわかった。

展開前半では、読み物資料「おくり物」（自作）で、けなした相手が自分をほめるのを聞いたときになぜ妙な気持ちになったのかを考えた。「ばかにしたのになぜほめたのだろう」「くやしくないのかな」「悪いことをした」などの意見が出され、友達への考えが変化しつつある主人公の気持ちをとらえることができた。その友達がみそ汁をこぼして文句を言われたとき、見ていた主人公の考えについて発表した。「以前ばかにしてしまった自分をほめてくれたから手伝おう」「だれでも失敗はあるのだからきつく言った子に注意する」「一生懸命な友達に悪口を言うのではなくて、励ましたり、教えてあげたりする」などの意見が出た。A男は「一生懸命に給食を配っているのだから手

**資料7 友達に助言されたときや、友達のよいところや苦手なことに気付いたとき**

伝ったほうがいいかな」B子は「私は一生懸命やっているみち子に悪いことをしてしまった。みち子に謝ろう」と発言し、主人公の友達への考えが変化したことをとらえることができた。そして、「宿泊の夜けなした友達からほめられたこと」が変化のきっかけであることもつかむことができた。また友達に文句を言った子についても主人公の忠告を素直に受け入れている様子をとらえることができた。

後半では、自分に忠告や助言をしてくれた内容や、よいところを見習いたいと書かれたメッセージカードの内容を読んで、子どもたちの表情はほころんでいた。それを基に、友達に助言されたときや、友達のよさや苦手なことに気付いたときについて振り返った。教えてあげたことやけなしてしまったこと、忠告されても無視してしまったな

(友達のよいところに気付いたときどうしたか。)

複数回答

・よさをほめて教えてもらい、見習ってみる (1人)	・友達のよいところを見習いたい (9人)
・友達のいいところに気づいてうれしくなったので見習いたい (1人)	・見習って苦手なことを克服したり、努力してうまくになりたい (5人)
・だれでも見習っていきいたい (2人)	・見習ったらできてうれしかった (5人)
・いろいろなどところを見習っていきいたい (1人)	・すごいと思ったので見習った (4人)
・一生懸命などところなどを見習いたい (2人)	・見習えば苦手でもできる (1人)
	・相手により見習ったりした (1人)

(友達に忠告や助言されたときどうしたか。)

複数回答

・忠告や助言を受けてやってみよう (17人)	・忠告されて自分が悪いと思った (1人)
・助言されてうれしい (2人)	・無視したけれど今度お礼を言いたい (1人)
・ありがたいと思って実行した (1人)	・うるさいと思ったけれど今はありがたい (1人)
・がんばろうという気持ちになった (1人)	・聞いて実行してみた (11人)
・聞いてやったらできたのでうれしい (4人)	・相手によって聞いたり無視したりした (1人)
・間違わずにすんでうれしい (1人)	・聞いてやったらできて、無視したらできなかった (2人)
・聞いてやってみたことを伝えた (1人)	・なぜ言われるのか、くやしいような気持ち (2人)
・忠告されないように気をつけよう (1人)	・聞かなかつた、無視した (5人)

(友達の苦手なことに気付いたときどうしたか。)

複数回答

・いっぱい助言したり教えたりしたい (1人)	・忠告や助言をした (9人)
・やさしくわかるように助言したい (2人)	・相手により助言がやさしかったりきつくなったりした (2人)
・助言するだけでいい気持ちになる (1人)	・相手により助言した (1人)
・助言したらお礼を言われてうれしい (2人)	・忠告しても聞いてくれなくて嫌になった (3人)
・忠告や助言したりしたい (12人)	・助言しなかった (4人)
・助言したら聞いてくれてうれしい (5人)	・失敗した人を見ぬふりをした (4人)
・助言して友達を応援した (2人)	・失敗した人をばかにした、責めた (2人)
・助言したら実行してほしい (1人)	

どの体験を思い出し、今後は友達のよいところを見習いたいことや見習ったときのうれしい気持ち、助言を受け入れて実行したいこと、助言されて実行したときや助言したときの気持ちなどを書いていた(資料7)。くやしい気持ち、助言を聞かなかった、無視したと書いた児童はみなこれからは助言を受け入れて実行したい、お礼を言いたいと書いていた。また忠告を聞いてくれなくて嫌になった、助言しなかった、見ないふりをした、失敗を責めたと書いた児童はみな友達に忠告や助言をしていきたいと今後への意欲を書いていた。

A男は、「サッカーがうまいね。ぼくにもアドバイスしてください。」「うどん作りの片付けのとき『めん棒を持ってあげるよ』と言っていたのでえらいと思った」「もっとやさしくするといいよ。」と書かれたメッセージカードを読んだ。それを見ながら、友達とのかかわりの体験を思い出し、助言を聞いてやってみたいことや助言したときの気持ちを書いていた(資料8)。

#### 資料8 道徳2のA男のワークシート

体育のマット運動で開脚後転をしていたら「足をもっと伸ばしたほうがいい。」と友達に言われた。試したらきれいにできてうれしかった。これからはみんなが言うことを試してみる。教えてあげたことがあるけれど文句を言われたときは嫌だった。○○君が危ないことをしたから注意したら聞いてくれてうれしかった。

B子は、「そうじをがんばっていてすごいと思いました。何でもがんばるB子ちゃんをまねしたいです。」「どんな人でもなかよくできてすごいと思います。わたしもまねしたいです。」「少しマット運動が苦手ですが、一所懸命でえらくてすごいと思います。アドバイス・・・スピードをつけるといいと思います。応援しているよ。がんばって!」と書かれたメッセージカードを読んだ後、友達に教えてもらったときの気持ちや、算数で教えた体験をあげ友達に助言していきたいことを書いていた(資料9)。

#### 資料9 道徳2のB子のワークシート

友達にいろいろなことを教えてもらってうれしかった。教えてもらったことをやってみた。友達が算数でわからなかったとき教えてあげた。私は友達のいいところをこれからたくさん

見つけてほめて助言してあげたいです。

ワークシートの内容を発表し合ったとき、宿泊の登山で最後尾になりながら最後まで弱音をはかずにがんばった友達の気持ちを見習いたいと書かれた振り返りカードの具体例をあげた。友達の得意なことだけでなくがんばる気持ちなども見習うことができると確かめ合った。

授業後1週間のスマイル日記を見ると、30人中全員が友達に忠告や助言されたことを聞いてやってみたいと書いていた。また、30人中28人が友達を見習いたいと思ったことや助言したことなどを書いていた。A男はそうじをがんばっている友達を見てまねしたいことや、マット運動で助言されたことを書いた(資料10)。

#### 資料10 道徳2の授業後のA男のスマイル日記

今日体育のマット運動でロンダードをするときに「手を一緒にはなすとうまくいくよ。」と、○○君がアドバイスしてくれました。連続技をするときに試したらできてうれしかったです。

今日そうじの時間に○○君がぞうきんでふくのをがんばっていたのでぼくもまねをしてトイレをきれいにしたいです。

B子は体育で跳び箱が苦手な友達ができのを見て考えたことや、音楽で歌い方を助言してもらったことを書いていた(資料11)。

#### 資料11 道徳2の授業後のB子のスマイル日記

今日○○ちゃんが体育で頭はね跳びのテストをがんばっていました。○○ちゃんは頭はね跳びができなかったけどできてすごいと思いました。私も○○ちゃんみたいにできなかったことができるようになりたいです。

今日音楽で歌を歌うとき、○○さんがきれいな声を出していたので教えてもらいました。「もっと口を大きく開けて歌うといいよ。」と言ってくれたので、やってみるときれいな声が出ました。また教えてもらいたいです。

これらのことから、「スマイルノート」の友達からのメッセージを読んで、友達に助言されたときや友達のよいところや苦手なことに気付いたと

きのかかわりを考えることにより、友達と学び合  
って友情を深めていこうとする意欲をもつことが  
できたと考える。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

- 「スマイルノート」と児童の日常生活を基に資  
料化した読み物資料を使い、主人公の考えにつ  
いて話し合ったことで、資料のそれぞれの場面  
を身近に感じながら主人公の心情を自分のこと  
として考え、ねらいとする価値に迫ることがで  
きた。
- 「スマイルノート」を見たり、具体例を聞いて  
思い出したりしたので、ねらいとする価値につ  
いて自分の考えや行動を具体的に振り返ること  
ができ、道徳的心情や実践への意欲をはぐくむ  
ことができた。
- 事後においても「スマイルノート」で日記に記  
述してきたことで、日常生活の中で仲間とのか  
かわりを振り返ることができ、友達と学び合っ  
て友情を深めていこうする道徳的実践力をはぐ  
くんでいけることが分かった。

### 2 今後の課題

友達とかかわっていく中で、自分自身への気付  
きとともに友達への考えも変化していく。道徳の  
時間ではぐくんだ心情や意欲を日々の活動に生か  
すだけでなく、今後も道徳の時間を柱としながら、  
学校の教育活動全体を通して仲間と互いに高め合  
いながら友情を深めていけるような指導の工夫を  
していくことが必要であると考えます。

〈参考文献〉

- ・押谷 由夫 編・著 『新学習指導要領を生か  
した 道徳の授業NO. 1』小学館（2002）
- ・押谷 由夫 編 『豊かな自分づくりを支える  
道徳の授業 5年』（2003）
- ・押谷 由夫 編著 『小学校 道徳 基礎・基  
本と学習指導の実際』（2002）

（担当指導主事 峯岸 哲夫）